

生徒参加型対話授業を目指して

岐阜県立岐南工業高等学校

野田 潤哉

【目次】

単元「アメリカ独立革命」の指導と評価の計画

学習指導案「アメリカ独立革命」

資料1 授業プリント

資料2 自己評価表

発表の要点

オーソドックスな授業。いわゆる生徒と教師がコミュニケーションをとりながら、進めていく授業である。私が普段授業で心がけていることは、生徒と教師の対話から授業が展開していけないかと言う、ごく当たり前の授業である。その授業の中には教師の発問の仕方や工夫、キーワードを生徒の口から引き出す工夫が大変重要になってくる。それは決して大袈裟なことをするのではなく、昔ながらの「教師が発問し、生徒が答え、教師が褒める」という一連の流れの中に、視覚に訴える資料を織り交ぜるのである。情報化社会と科学技術の発達とともに現代の生徒の目は肥えてきている。従って、資料集の中の写真やパネルでは生徒の関心を引くには少し乏しいときがある。そこでPCの活用ということになる。プロジェクターを利用し、大型スクリーンに映し出す方法である。初めて授業でPCを使い、スクリーンに大きく映し出された写真を見たときの生徒の反応は「お～っ」という驚きと歓喜の声であった。私も予想以上の反応に感動したことを覚えている。しかし、プロジェクターに映し出される資料はあくまでサブであり、メインは生徒と教師の対話、アクションとしてサブ資料があるのである。資料の役割は、人物画や戦いの様子の紹介だけではなく、映し出された絵、動画から感じることや疑問を生徒にぶつけ、生徒自ら考察し答えを出す。教科書には書いていないことを自らのもてる知識で答えることでの喜びが授業への関心を高めることへと繋がっていく。生徒自身が授業に参加しているという実感、喜びを与え、教科への関心に結びつき、もっとたくさんさんのことを学びたいと言う探求心へとつながり、一過性のものではなく、生涯への学びへと変わっていくと私は考える。

私の考える教師とは、生徒に教科書に載っていることを教えるだけではなく、授業、学校生活の対話を通じて、教師自身の生き様を生徒にぶつけ、生徒はそれを聞き、生きていくための人生観や人間観、世界観を考える力を付ける手助けをする存在と考える。知識、教養とは、教師でなくとも、塾や自ら教科書や書物を読めば身に付くものであり、教師のできることは、対話を通して何事にも興味、関心、意欲をもち、自分で課題を見つけて解決していく姿勢・力を養うことと考える。

単元の指導と評価の計画

第3章 19世紀のヨーロッパとアメリカ

単元の目標

市民革命とその影響、諸国間の戦争と国際関係、近代国家の成立、19世紀における諸民族国家の成立などに着目させ、近代国家の形成過程を理解させる。

単元ごとの評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成に対する関心を高め、意欲的に追究し、考えようとしている。	ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成について考察し、判断している。	ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成に関する資料を活用するとともに、考察した過程や結果を適切に表現している。	ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成を理解し、その知識を身に付けている。

「アメリカ独立革命」

目標

13植民地成立からアメリカ合衆国が成立する過程を理解させ、それが現在のアメリカを象徴する言葉、「自由」「州」「コーヒー」などのキーワードと大きく関わっていることを、教師との対話やプロジェクターに映しだされる資料から確認し、現代の事象とアメリカの歴史とのつながりを見いだす中で、関心・思考・知識を高め、世界史への勉強意欲を高める。

「アメリカ独立革命」の評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
北アメリカ東岸へのイギリス人移住、13植民地成立から独立戦争、アメリカ合衆国成立の歴史に対する関心と課題意識を高め、多様な学習方法を通して意欲的に参加・追及するとともに現代のアメリカを考える公正な態度を身に付けようとしている。	北アメリカ東岸へのイギリス人移住、13植民地成立から独立戦争、アメリカ合衆国成立の歴史から課題を見だし、現代のアメリカの考え方や風習、スピリットなど関連付けて多面的・多角的に考察するとともに国際社会におけるアメリカの役割を正確に判断をしている。	北アメリカ東岸へのイギリス人移住、13植民地成立から独立戦争、アメリカ合衆国成立の歴史に関する諸資料を収集し、生徒の興味関心を引く情報や考察できるパネルや動画などPCを駆使し大型プロジェクターに映しだし、生徒との対話を通して追及、考察した過程や結果を適切に表現している。	北アメリカ東岸へのイギリス人移住、13植民地成立から独立戦争、アメリカ合衆国成立の歴史に関する基礎的な事柄を現代におけるアメリカの考え方や風習と関連付けて総合的に理解し、その知識を身につけている。

各授業時間ごとの主な内容

1 アメリカ独立革命			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第1時間目	<p>アメリカへのイメージ</p> <p>13植民地成立</p> <p>イギリス本国と13植民地の対立</p> <p>独立戦争の原因、背景、経過</p> <p>13植民地の勝因 キーワードの確認</p>	<p>アメリカと聞き、生徒が浮かべるイメージから、「自由」「州」「コーヒー」のキーワードを出させ、スクリーンに「自由の女神」「星条旗」を映し、関心を高める。 【関】</p> <p>13植民地の名前と位置を理解する。(13人の生徒を指名し板書させる) 【知】</p> <p>本国イギリスの重商主義政策による13州への課税、それに対する対応策を理解する。 【知】</p> <p>1775年のレキシントンの戦いから1789年ジョージワシントン就任までの経過を理解する。(年表を埋める) 【知】</p> <p>戦術の動画や説明を聞き、アメリカの勝因を考察する。 【思】</p> <p>3つのキーワードがアメリカ合衆国成立に関係していることを理解し、現代アメリカの諸事象と歴史とのつながりを通してアメリカの歴史への関心を高める。 【関】</p>	<p>対話による交流 プリント記入</p> <p>机間指導 意見発表 プリント記入 意見発表 プリント記入 対話による交流 プリント記入 机間指導</p> <p>対話による交流 意見発表 対話による交流 プリント記入 自己評価表</p>
2 フランス革命			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第2時間目	<p>「革命」とは</p> <p>アンシャン＝レジーム(旧制度)の矛盾 革命勃発</p> <p>共和政と恐怖政治</p>	<p>「革命」本来の意味を理解する。 【関】</p> <p>アンシャン＝レジームの特色と矛盾を資料集、パネルを駆使し、生徒の関心を高め、考察する。 【関】【思】</p> <p>1789.6のテニスコートの誓いから1793.1のルイ16世処刑までの経過を理解する。「バスティーユ牢獄」「人権宣言」「ギロチン」などの話やエピソードを交え生徒の関心・意欲を高める。 【関】【知】</p> <p>共和政の成立、ジロンド派とジャコバン派の対立、恐怖政治の成立の経過を理解する。 【知】</p>	<p>対話による交流 意見発表 意見発表 プリント記入</p> <p>机間指導 対話による交流 プリント記入 意見発表</p> <p>意見発表 プリント記入 自己評価表</p>

3 ナポレオン時代			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第 3 時 間 目	ナポレオンのイ メージ	スクリーンに映し出すナポレオンの 写真や功績から、興味・関心を持た せる。 【関】【思】	対話による交流 プリント記入
	ナポレオンの政 治	外征・内政、帝政の樹立の経過やエ ピソードを理解し、ナポレオン政治 の特徴を考察する。 【知】	対話による交流 意見発表
	ナポレオンの絶 頂	ナポレオンのヨーロッパ大陸支配の 経過を理解する。 【知】	プリント記入 意見発表
	ナポレオンの没 落	反ナポレオン体制の確立、ロシア遠 征失敗から流刑、復位、再流刑まで の経過を理解し、ナポレオンの人生 観を知る。 【思】	意見発表 グループ交流

教科(科目)	地理歴史科 世界史A	単元名	19世紀のヨーロッパとアメリカ
本時主題	対話による授業展開とアメリカ独立革命の歴史的意義 (1時間目/1時)		
本時の目標	<p>1. 教師の対話、スクリーンの写真や動画から生徒が主体的に考え、意見を積極的に発言できる授業によりアメリカ史への関心を高める。【関】</p> <p>2. 13植民地の成立からジョージ・ワシントン就任までの経過を資料集、教科書を用いて正確にプリントへ記入し、理解する。【知】</p> <p>3. 13植民地の勝因を資料集、戦術の動画から考察し、当時のイギリス本国が国際的に孤立していたことを理解する。【思】</p> <p>4. 「自由の女神像」などの現代のアメリカを代表する事象が、アメリカ合衆国成立(独立)史と関わりのあることを理解し、アメリカ史と現代アメリカの事象に対して関心を高める。【関】</p>		
指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
アメリカへのイメージを浮かべよう	<p>アメリカ合衆国を象徴づける「自由」「州」の言葉を「自由の女神像」「星条旗」など生徒との対話から引き出す。各説明を行う。</p> <p>「アメリカと聞いて、頭に浮かんだものは？」 「自由の女神の左手何か持ってるね？」 「星条旗の星って何を表してるの？」</p>	<p>生徒からの意見をできるだけ黒板に書き留める。【関】</p> <p>〔評価方法〕 発問、意見発表</p>	
北アメリカ東岸への移住と13植民地	<p>革命当時の星条旗を紹介し星の数が13であることを確認、13州の名前を具体的に記入する。13人の生徒が黒板に板書する。</p> <p>「北アメリカ東岸に移住したのはどこの国の人？」「目的は？」</p>	<p>「自由の女神像」「星条旗」をスライドで紹介し、生徒の関心を高める。【関】</p> <p>机間指導より、プリント記入漏れがないか確認。【知】</p> <p>〔評価方法〕 発問、意見発表、机間指導</p>	
イギリス本国と13植民地の対立とボストン茶会事件を学習しよう	<p>フレンチ・インディアン戦争をきっかけにイギリス本国へ接近、対立の流れを理解する。ボストン茶会事件に注目し重要性を理解する。</p> <p>「どうしてこんな格好してるんだろうね？」 「何で紅茶なんか捨ててるんだろうね？」 「観光客の体験ツアーがあるんだって！」</p>	<p>ボストン茶会事件の様子と観光客の様子をスクリーンに映し、生徒の関心を高める。【関】【知】</p> <p>〔評価方法〕 発問、意見発表</p>	
独立戦争の理由、様子と背景を学習しよう	<p>パトリック・ヘンリ、トマス・ペイン達の影響から独立革命への気運が高まりを理解し、独立戦争の様子、背景を考察し理解する。</p> <p>「赤い服はイギリス軍、私服はアメリカ民衆なんだね」「どちらが優勢なんだろうね？」 「なんで太鼓持ってるんだろうね？」</p>	<p>二人の写真を紹介、戦いの様子の写真や動画を見せ生徒の関心を高める。【関】</p> <p>〔評価方法〕 発問、意見発表</p>	
独立戦争・憲法発布	<p>1775年のレキシントンの戦いから1789年ジョージワシントン就任までの年表を埋める。スクリーンを用い、ワシントンやトマス・ジェファソンの顔、独立宣言の署名の様子などを紹介する。</p> <p>「1ドル札に描かれてる人って誰だろうね？」 「みんな集まって何してるんだろうね？」 「この中でトマス・ジェファソンは何処にいるんだろうね？」</p>	<p>顔写真や独立宣言の署名の様子から生徒の関心を高める。年表は資料集や教科書を用いてプリントへ記入、机間指導を行う。【知】</p> <p>〔評価方法〕 発問、意見発表、机間指導</p>	
13植民地の勝因	<p>13植民地の勝因が、当時のイギリスが国際的に孤立していたことにあることを、資料集、戦術の動画から考察する。</p> <p>質 「どうしてフランスは助けてくれたんだろうね？」 質 「正攻法からアメリカはどんな戦術に変えたと思う？」 質 「参戦してくれた国の本当の目的は何だろうね？」 質 「イギリス以外の国だったら参戦してくれたかな？」</p> <p>生徒から出して欲しい答え</p> <p>答 「フレンチインディアン戦争の仕返し」 答 「奇襲作戦をとる」 答 「イギリスに対してダメージを与えるため」 答 「相手がイギリスだから勝利できたんだ！」</p>	<p>勝因が参戦した国の存在戦術の変更にあつたことを資料集、戦術の動画から考察しやすくするために対話形式を進める。生徒達の出す意見をヒントに、クラス全体で考察する。【思】</p> <p>〔評価方法〕 発問、意見発表</p>	
キーワードの確認	<p>3つのキーワードを確認しアメリカ合衆国成立に関係したことを理解する。</p> <p>「ボストン茶会事件以来、好んで紅茶を飲まないようにしてきたんだね」 「自由、州、コーヒーのキーワードがアメリカ成立に関わっていたことが分かった人？」</p>	<p>「自由」「州」「アメリカンコーヒー」などアメリカ史との関連から現代アメリカの事象に対して関心を高め</p> <p>〔評価方法〕 発問、意見発表、自己評価</p>	

自己評価表

3年3組 ()番 氏名()

今日の授業に対する君たち自身の採点は？

1. 評価

質 問	評 価				
私の問いかけに声を出して発言できた。	5	4	3	2	1
授業中、積極的に参加できた。	5	4	3	2	1
プリントは全部埋めた。	5	4	3	2	1
今日の授業で自分の取り組みを採点するなら？	5	4	3	2	1
今日の授業を採点するなら？	5	4	3	2	1

2. 質問・疑問

授業中、疑問に思ったことや質問を書きましょう。

--

3. 問題

(1) アメリカ独立革命とは13植民地がどこの国から独立しようとした戦争か？

--

(2) アメリカ人が紅茶を好んで飲まないのは何の事件以降か？

--